

芭蕉箱甲子吟

54
2352

54
2352

54
2352



54
2352

54
2352

甲子吟繪卷
濁子画
芭蕉與書
東京都 大橋図書館 藏

昭和四年十一月十四日
大橋新太郎居士寄贈
大橋図書館藏

蕉名
甲子吟
行
大橋



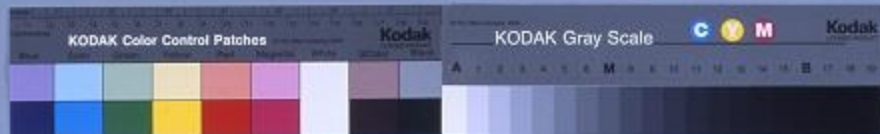
1000000



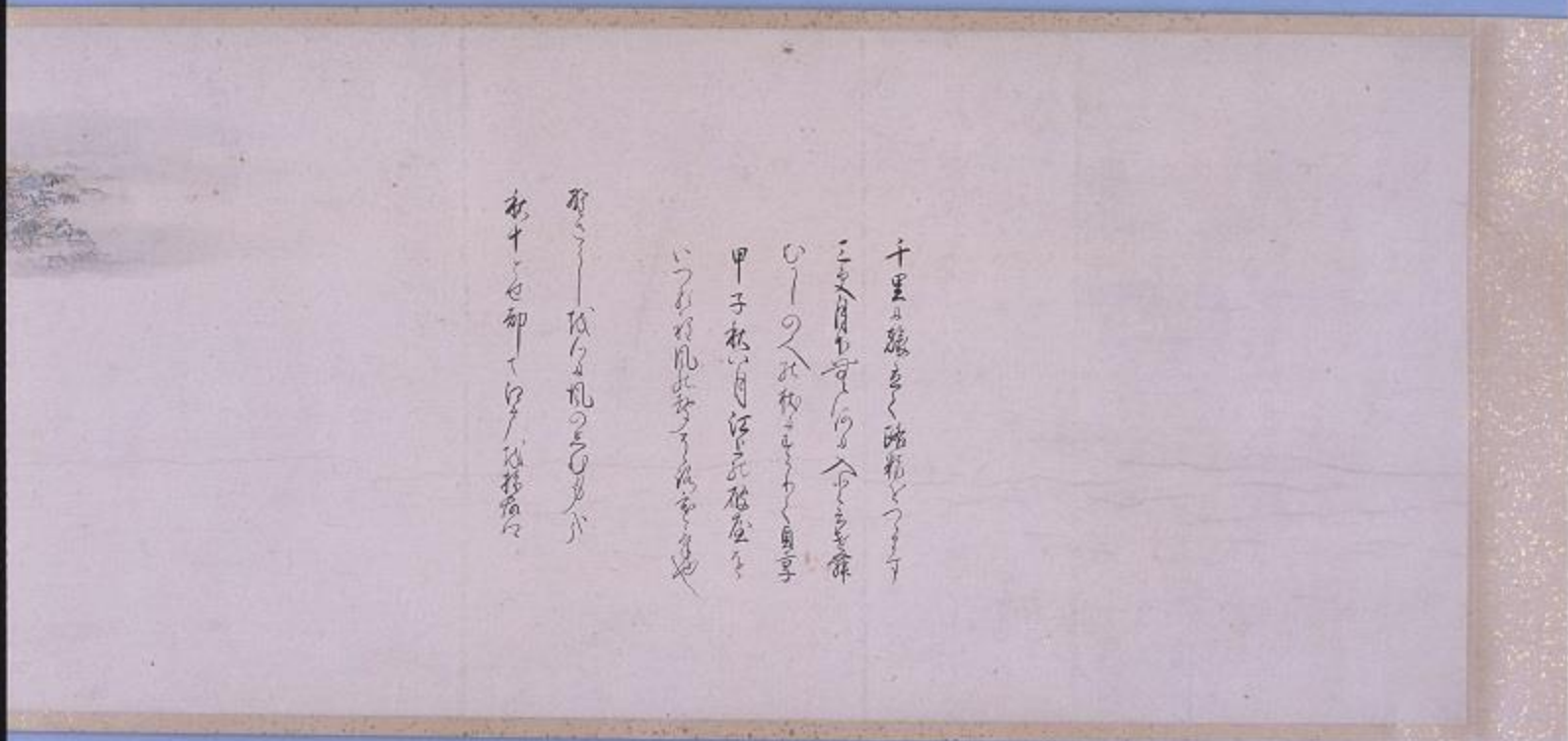


L. GREEN





1000000000



千里は遠きく階梯ついで
こゝの月も昔の人のまを
ひーのくみ初まもくく真字
甲子林の月江に花を
いつわれば此れ初まもくく真字
初まもくく初まもくく真字

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



1000000



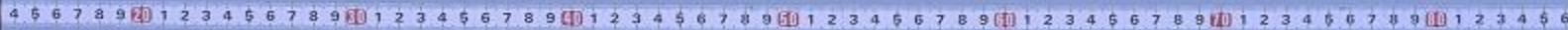
関之山日之町
山崎町
山崎町

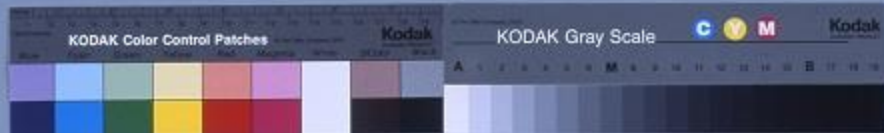




山は雲に隠れし
路は霧に消えし
心は空に飛べし
2000

閑さし猿蓑の
山は雲に隠れし
路は霧に消えし
心は空に飛べし
5
海川や古馬の
心は空に飛べし





1000000

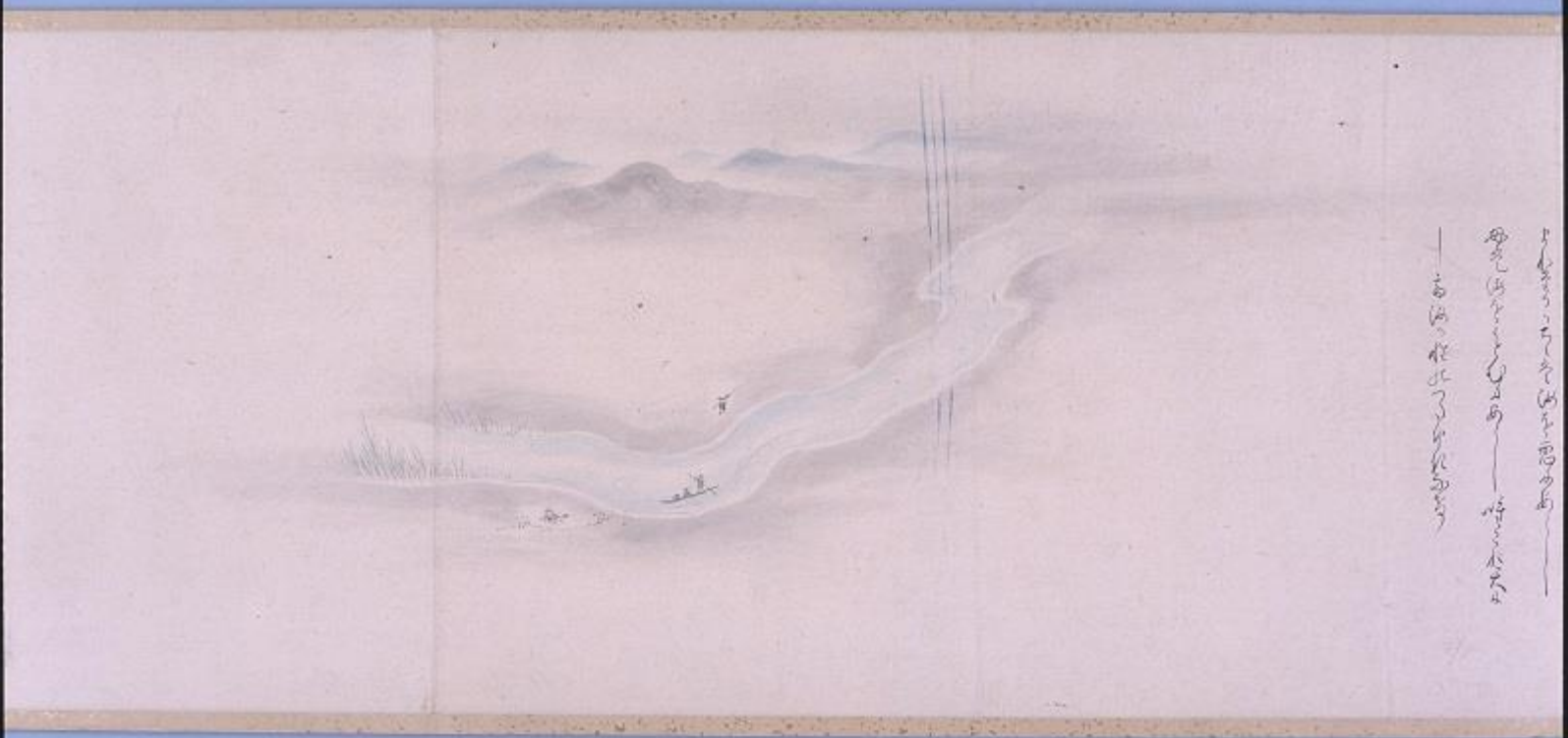


富士の峰より下りてこの村ありては
 雲も霞もはらけぬ川の水も清く
 ういせればはるをこのうき世に
 の原と谷とゆく旅もなほしれぬ
 女木の枝にこぼれらるる涙も
 なんと福もいづれかたしと
 旅を聞く人ぞよき旅の風
 いづれかやほらぬ世にわかれ母
 ともなふことぞはらけぬ
 母を思ふことぞはらけぬ
 旅の風を思ふことぞはらけぬ

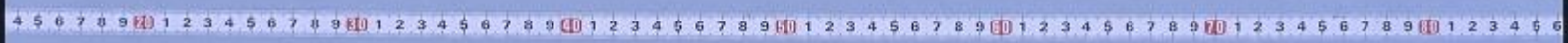




1000000



上流より下流へ流るる河川
舟は下流にありて
舟は下流にありて



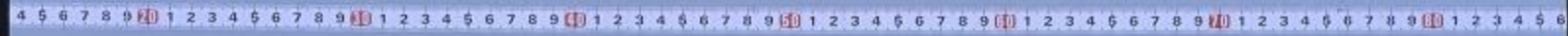


100000000



二十一年の月

右井川趣の是れ既の画
まはるく
秋の景画の趣をたす川
馬上吟
たのむに
馬





1.000000



馬
山
水

二十七日の月

この山に雲を巻く

松陰いづこにこころとて一軒をまわ

ぬまにゆく霧のふりそと杖杖をまわ

りかまわぬ夜のみしよむくく思ひ

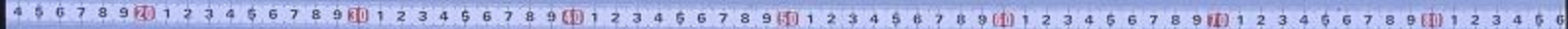
馬にのりて遠く見わたせば〜事なりとわ

むき花を几帳にばかきよるまゝのひさ

びと十人けり足なごころの腰間〜

寸鐵をかいた標二一棗をうけて

年二十八の傳を獲り一僧をかく





二十七日

ついでにきて止の

相成りてうらたにこしと一教をうわ

ねまひしつる影のふりて杖をさし

おめをた夜つらしむわく思ひ

馬に寄る残る月影を

むすむ丸保のぼるまうが

信し十りしとまをこし腰間

寸鐵をさし下櫛を一棗をうけて

手二十八の指を握りて僧をい

唐の信をく我をく一舟停又

ちいさなこも思ひがこものを信

着の履をくくつゆをうら

地をこす言く外言を信んか

一の筆をた流のくく丸は流

くはふてこしとせもこを

ねんをさしけしめうら

みくつ月影をさし杖を

西の首を信ん流

手はし西の首を信ん流

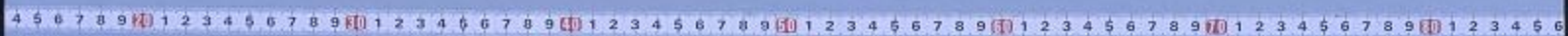
しれれをいあう

てしをさし

茶のまを

同人のまを

まを





000000



白雲の山に
茶の湯の
山人の
竹の影を
か

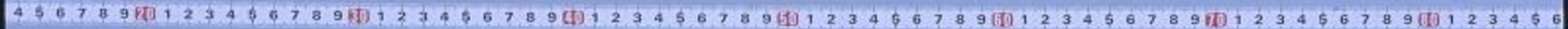




000000



月夜にありて浮く北堂の雲の
お花とくしとみぬまかー何と
ひーさきくくくくお花のく肩
おのくお花とてこのみさる
こたにわりの身はをりて母
お花とくくくくくお花の
お花とくくくくくくくくく





LAURENCE



これに因りては
吾も此の竹の角や云
かゝる故らう回甲の太
りしうしうしうしうし
は
米
の
り
の
り
の
り





11000000



いづれしんじつにわたりて

あつたふた夜をこく

雁赤く 柳まじりて 白く 柳まじりて

西山へみまのるに

奥の院より

計りて入るに

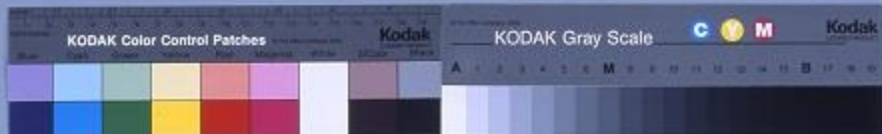
つたつたつたつたつたつた

谷をるてつたつたつたつた

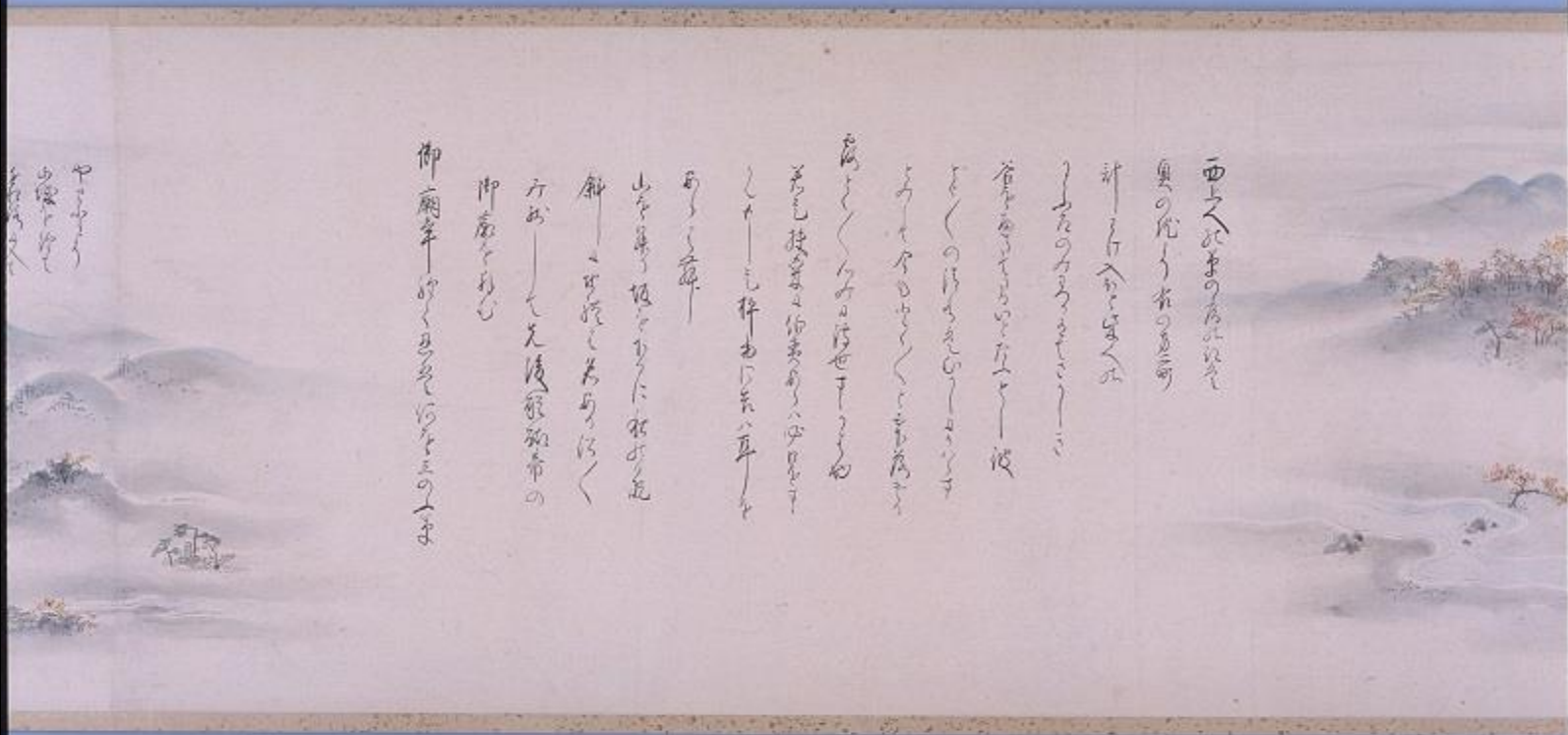
とくくのつたつたつたつた

ふみてつたつたつたつた





11808888



西より水まの流るるを

奥の院より省のまを

計りて入るるまを

つたのふりまを

谷をまをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

まをりてりまを

御二廟年一ゆきまをりてりまを

まをりてりまを

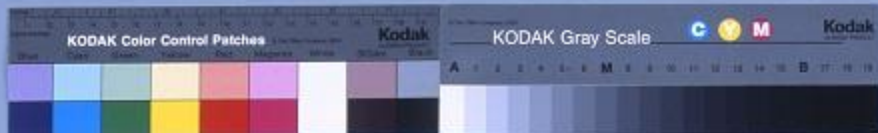




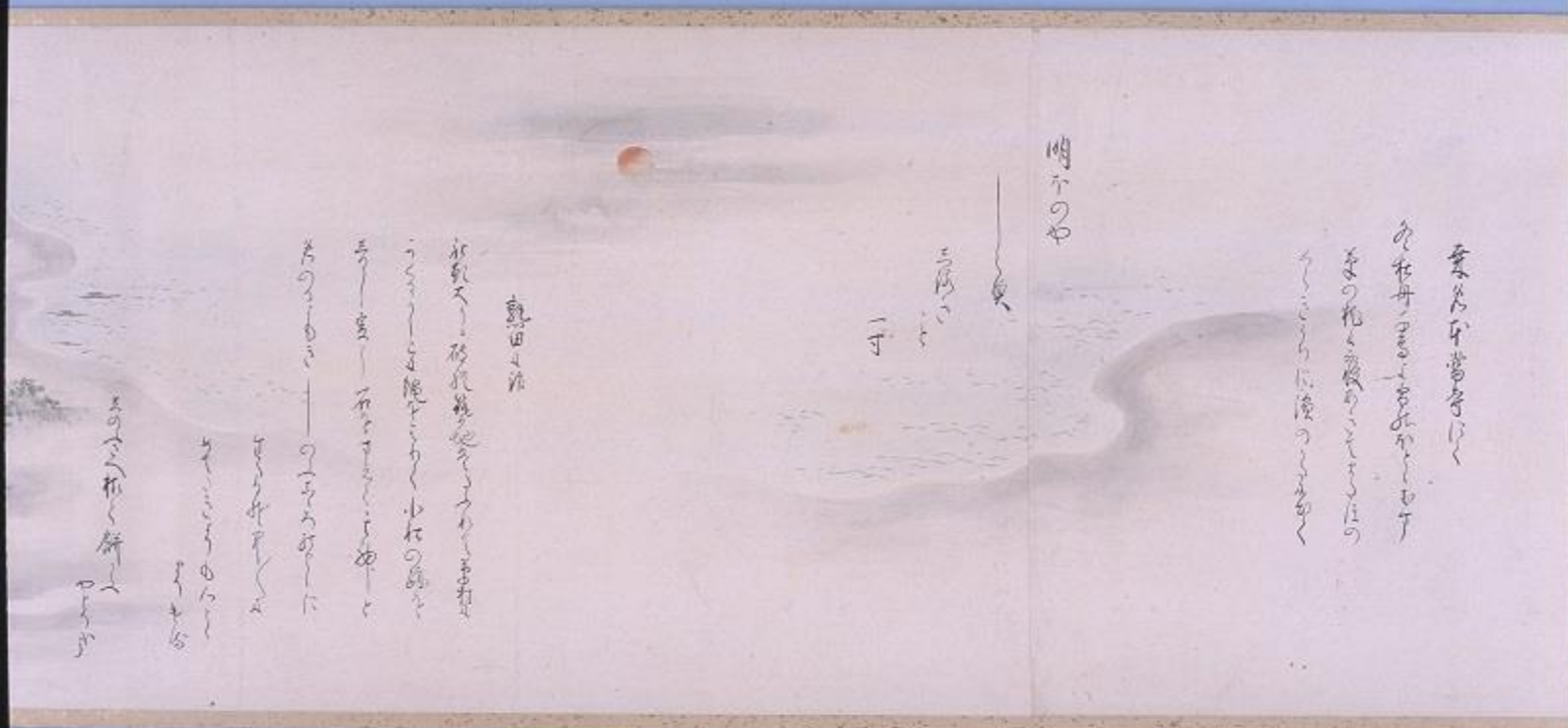
1000000

三浦の風景 松林 〇〇〇〇

4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6



1000000



春のふり草子

舟舟のふり草子

舟舟のふり草子

舟舟のふり草子

明子の舟

舟舟のふり草子

舟舟のふり草子

舟舟のふり草子

舟舟のふり草子





00000000

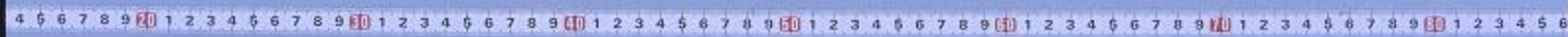


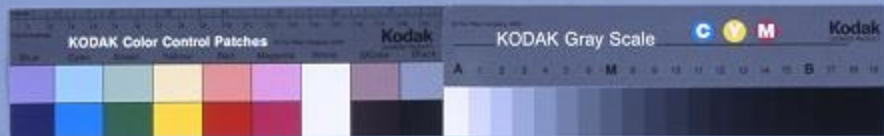
名護屋と入谷の竹林
 卯白石根在る竹と草と何れも

三のふもへ解
 三のふもへ解

三のふもへ解
 三のふもへ解

懸田之治
 社殿と一軒の松地をうらわしむれど
 うらわしむれど一軒の松地をうらわしむれど
 うらわしむれど一軒の松地をうらわしむれど
 うらわしむれど一軒の松地をうらわしむれど
 うらわしむれど一軒の松地をうらわしむれど

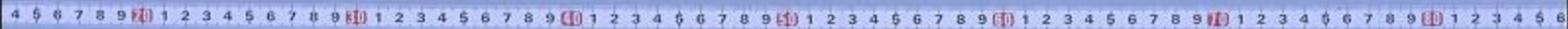




000000



名護屋に入居の程風情々
和風千代紙の道へ行 玉ふし河原が
手札大の 海帯 くらぶ ぶらぶら
おんまふらふら
市くし水とくくくくく
歌くまう
馬をくくくくくくくくく
海をくくくくくくくくく
かのかく



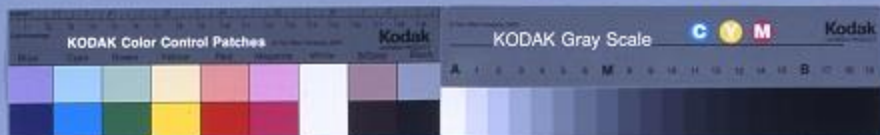


000000



山居の
音
山居の
音
山居の
音
山居の
音





100000000



糸のくくく糸

糸のくくく糸

糸のくくく糸

梅林

海の中へ

海の中へ

梅の葉

梅の葉

梅の葉

梅の葉

竹見の山

竹見の山

竹見の山

大津の山

大津の山

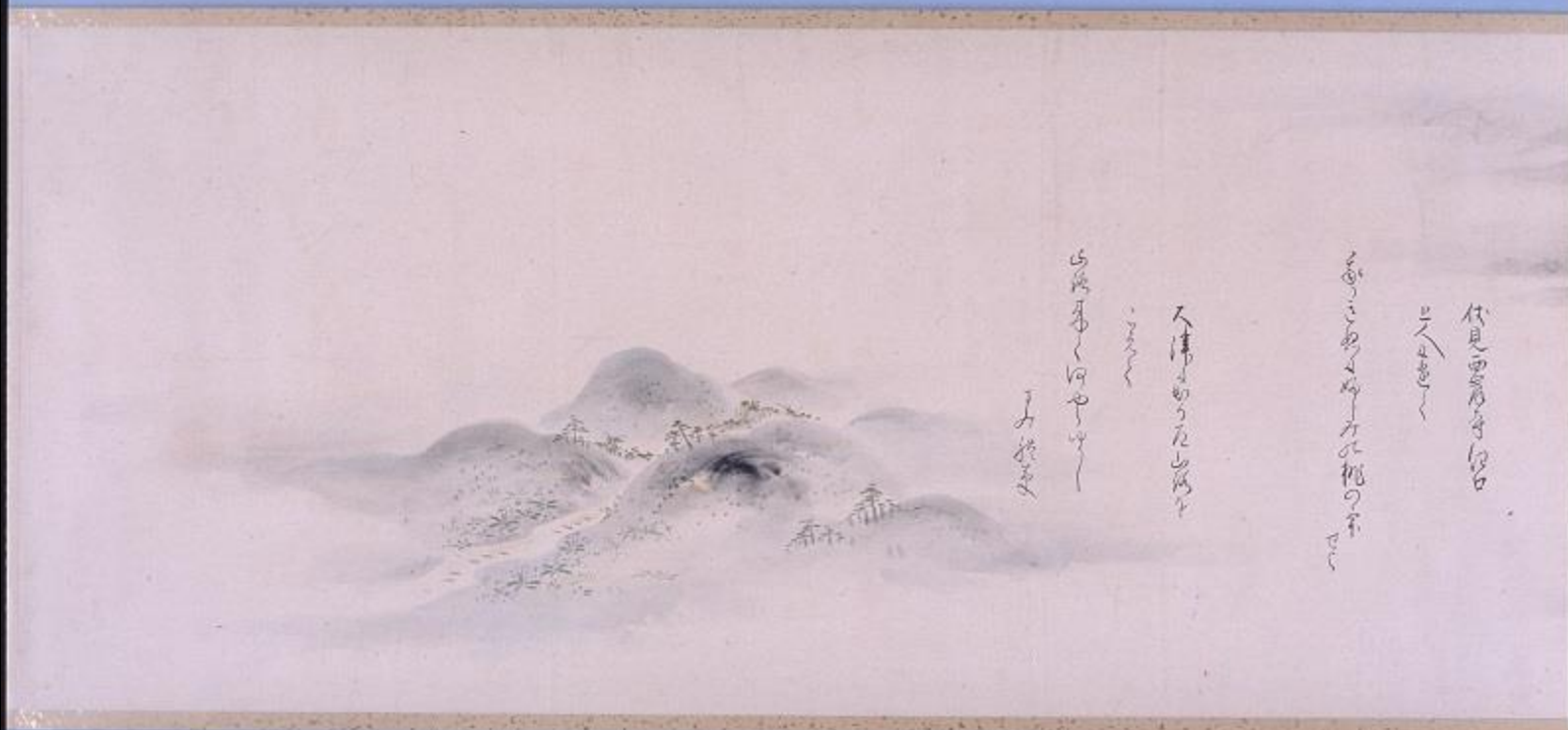
大津の山

大津の山

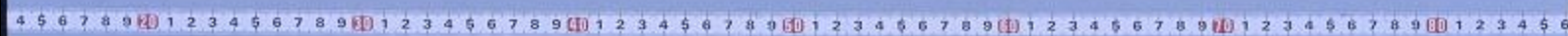
4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



1000000



竹見西宮子白
山見西宮子白
山見西宮子白
山見西宮子白
山見西宮子白





11000000

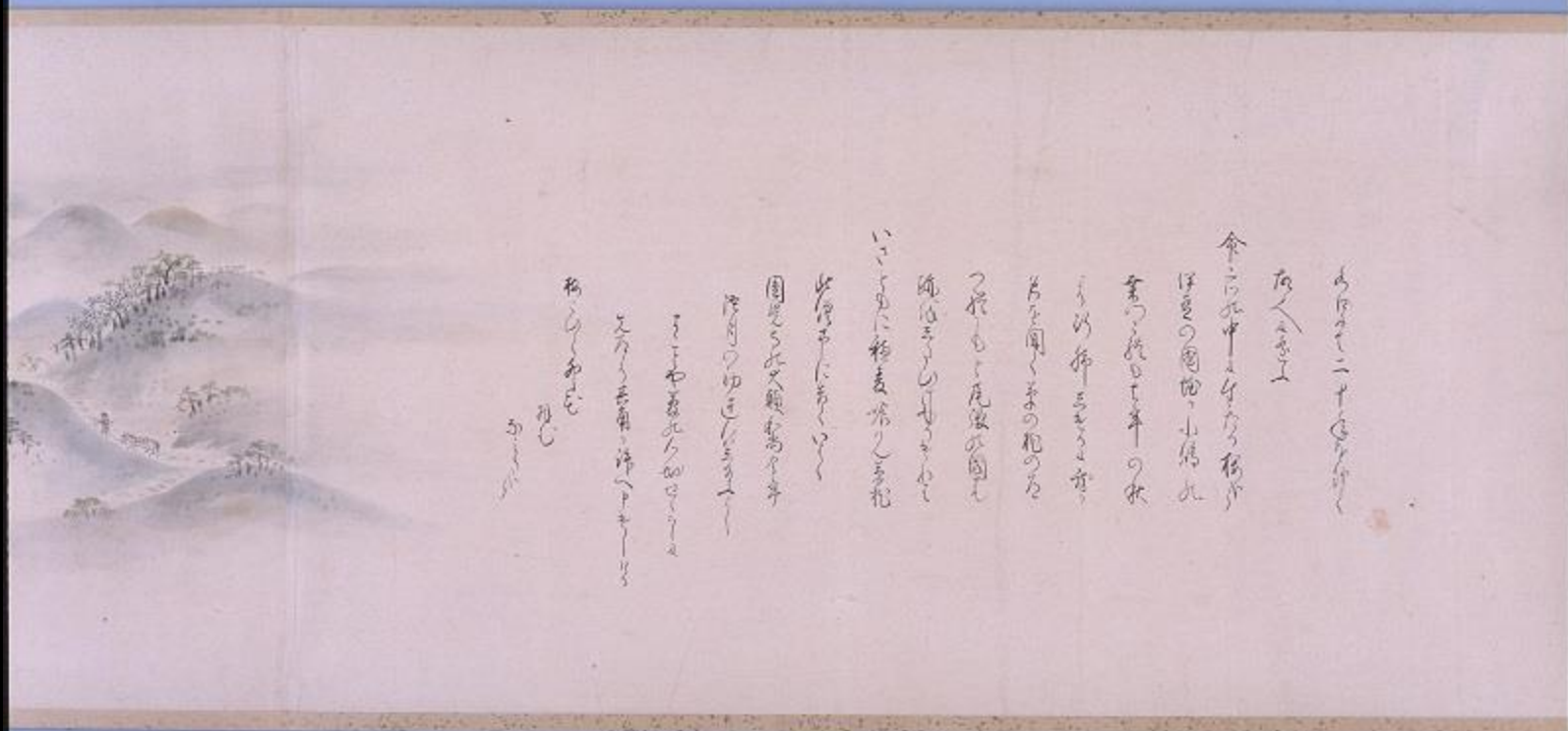


湖水の眺望
幸治の
松多
龍





1000000000



あつて二十三年の秋

あつて

余に於て二十三年の秋

ほむの園地、小集

余の終りて年一の秋

いかに存するも

名を聞くよの程の

つれもく尾張の園

疎はまのしりぞく

いさよに移まはる

此の手にあつて

園地は又観る

此の手にあつて

いかに存するも

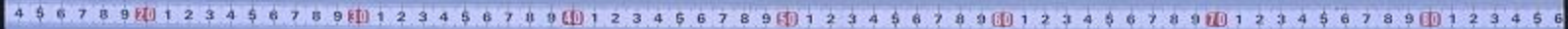
名を聞くよの程の

つれもく尾張の園

疎はまのしりぞく

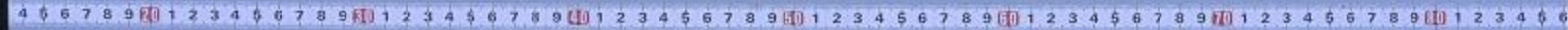
いさよに移まはる

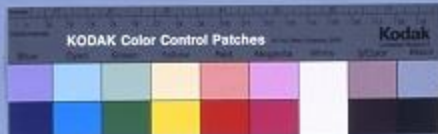
此の手にあつて





1000000





100000000



松園の山

白雲の山

山

山

この山

山

山

牡丹堂

山

甲斐の山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



1000000





2000000000

送る秋 — (のちまのうらりまわ丹)

あゝこの海をわたりわたりて風花芭蕉

我有来しもにやたる道 — (あゝこのち)

こゝろの秋をまよもよ — (あゝこのち)

あゝこのちのうらりまわ丹 — (あゝこのち)

廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

百七 敬る女

あゝこのち

あゝこのち
秋の風



4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100